

## 第8回日展

### 第3科（彫刻） 審査所感

審査主任 能 島 征 二

第八回日展は、昨年よりの新型コロナ感染症が減少傾向に向かい、はれて開催の運びとなりました。これもひとえに、会員、関係者、出品者各位の熱意とご尽力の賜物と厚く感謝申し上げます。

第三科の彫刻は、草創期より絶えず具象表現を求め、作家各位が相互に技術を磨き、多様な表現を重視しながら、高い品性、感性、造形性を希求してきました。

一般応募作品は、ここ数年減少傾向が続いてきましたが、厳しいコロナ禍にあっても積極的に制作に挑み、入選作品は質の高い表現が見られた。厳しい造形性、内面に宿る造形思考を重視した作品を入選作といたしました。その内新入選は三点であった。特選は、各審査員が入念に審査し、高い造形力表現力を重視して、質の高い八点を審査員の総意として選出した。

彫刻の会場は、日展がまさに具象の殿堂であると主張するように、流行に流されない、作家個人の内的な造形精神を、その技術を、具象表現に遺憾なく込めてきた感があります。どうか日展の歴史的な継承、その具象の形象を間近に感じて頂きたい。

搬入数	88点
入選数	64点
(内新入選)	3点